

# TAC 制度下における漁業資源評価と資源管理に関する研究 2

## マグロ類（日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査）

由木雄一・石田健次・安木茂・為石起司\*1

### 1. 研究目的

マグロ類資源の安定的な利用確保を目的として、本資源の科学的データを完備するための調査を実施する。国および関係各県の協力の下に実施されるが、本県はマグロ類の市場伝票の整理とクロマグロの生物測定を行う。

### 2. 研究方法

#### (1) 市場伝票調査

主要 6 漁港（浜田・五十猛・大社・北浜・恵曇・浦郷）に水揚される、マグロ類（クロマグロ・キハダ・メバチ・コシナガ）の漁獲量を魚種別・月別・漁法別に整理した。クロマグロについては銘柄別（マグロ・ヨコワ）に分類し、マグロは尾数と体重の集計を行い、ヨコワは平均体重から総尾数を推定した。

#### (2) 魚体測定調査

浜田港および五十猛港において、ヨコワ・コシナガの尾叉長の測定を実施した。また、その一部については体重の測定も実施した。

### 3. 研究結果

#### (1) 島根県におけるマグロ漁業の実態

本県で漁獲されるマグロ類の大半はクロマグロで、全体の約 95% を占める。その他のマグロ類はコシナガ、キハダ、ピンナガなどである。マグロ類を対象にした漁業には定置網・曳縄釣・まき網がある。年変動があるものの漁獲割合はまき網が 70%、曳縄釣が 25%、定置網が 5% となっている。

#### (2) 2000 年のマグロ類の漁況

主要 6 港のクロマグロの漁獲量は 1,652 トンと平年の約 3 倍の水揚げであった。内訳は全体の 99.7% がヨコワ（体重 20kg 未満）で、好調だった前年を大幅に上回る 1,647 トンが水揚された。一方、マグロ（体重 20kg 以上）は 4.6 トンと前年を上回ったもののほぼ平年並みの量であった。マグロは 5~8 月に定置網で漁獲された。また、まき網でも 1 月にまとまった漁獲が見られた。体重は 20~87kg と大半が小型個体であった。ヨコワはほぼ周年漁獲されたが、ピークは 6~8 月と 10~12 月であった。漁獲されたヨコワの尾叉長は 36~84cm の範囲にあった。

その他のマグロ類としてはコシナガ（尾叉長 32~62cm）が 41 トン、ピンナガ 9 トン、キハダが 3 トン水揚された。

### 4. 研究成果

- 調査結果は日本 NUS を通じて水産庁に報告され、資源評価の基礎資料として利用された。また、平成 12 年度日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査年度末検討会で報告された。

---

\*1 栽培漁業センター